

小さな村の150年の軌跡

大山

蒜山

中和地域

面積：4,773^{ヘクタール}
〈R4.4.1（住民基本台帳）〉
人口：586人
世帯数：251世帯
高齢化率：46^{パーセント}
小学校児童数：19人

～私たちの村は「どこからきたのか、
どこにいるのか、どこに行くの
か」～

その時代、時代を
懸命に生きて来た人々と小さな村！

その時々々の時代と暮らしを、
そして、自らの今と未来を想って・・・

小さな村「中和」の始まり

【明治の時代とは】
「富国強兵」…西欧をモデルとして、資本主義経済と植民地支配が、極東の国（日本）でも始まった。

2万3千年前ごろ

狩猟採集民が生活し、広域な交流もあった(岡山理科大が中和を発掘調査)

〈1872年〉徴兵令を發布

1872年(M5)
〈150年前〉

中和地域の人口:774人
…全国初の戸籍調査を実施
(総人口3,312万人)

1850年頃、近代的な油田がつけられた

〈1872年〉「学制」を公布(明治の後期には、95%の子どもが小学校に通うようになった)

〈1873年〉日本国籍が制定され、「日本人」という明確な実態ができた

1877年(M10)
〈145年前〉

寺子屋を集めて、5ヶ村連合(別所・吉田・下和・真加子・初和村)の「中和小学校」を、湯の谷に開校

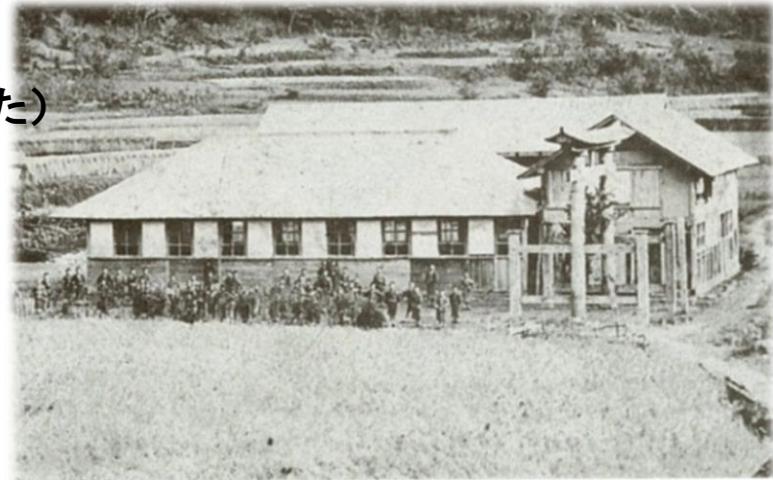
〈1878年〉区政を廃止して「町村制」を実施(各村に「戸長役場」を設置)

1881年(M14)
〈141年前〉

吉田の鉄山が廃業
(これをもって、「タタラ生産」は終了した)

「中和」の由来

儒教の経典「四書」(大学・中庸・論語・孟子)の一つ『中庸』の一節、“中和を致せば、天地位し、萬物育す”からとったもの。簡単言えば、「人は、もともとは喜怒哀楽もなく偏っていない(中)。これらの感情が発しても、節度をもち偏りがなければ全てに適う(和)。「中和」を推し進めて極めれば、世界は安泰で、人も物も皆その生を遂げることができる。」という意味。



洋風となった明治40年代の校舎

人口増加と戦争の時代

1889年(M22)
〈133年前〉

5ヶ村が合併して「中和村」が誕生
人口:1,027人

〈1889年〉市町村制施行
【明治の大合併】
71,314町村⇒15,859市
町村に減少

〈1894～95年〉朝鮮出兵と「日清戦争」勃発

〈1896年〉伝染病が大流行(赤痢による死者は2万2千人、腸チフスの死者が9千人)

1903年(M36)
〈119年前〉

人口:1,108人

〈1903年〉ライト兄弟が有人飛行に成功

〈1904～05年〉日露戦争が没発

1908年(M41)
〈114年前〉

腸チフス・赤痢が発生
(数名が死亡し、M43年まで続いた)

〈1910年〉韓国併合

〈1910年〉フォードが自動車の大量生産

1911年(M44)
〈111年前〉

部落有の全財産を、村有地に統合
村内の各無各社を久那止神社に合祀
(村名を採って「中和神社」と改称)



カゴ(背負い籠)

〈1913年〉空気中の窒素を使える方法(化学肥料)を発明

1914年(T3)
〈108年前〉

初和に用水路用隧道93m完成(大正田の水路)

〈1914～18年〉第一次世界大戦

【大正デモクラシーと護憲運動】
民衆に自由な空気と、憲法に基づいた民主的な政治を求める動きが広がっていった時代。

1915年(T4)
〈107年前〉

9月に大暴風雨(村内各地の大杉が倒れた)
「青年団」を設置(義務教育終了後から20歳まで)

1916年(T5)
〈106年前〉

中国製鉄(株)中和製材所が
一の茅に開設



中国製鉄株中和製材部のようす [大正8]

1918年(T7)
〈104年前〉

無集配郵便局が開設
(中島丈三郎宅)

本格的な政党内閣(原敬内閣)が誕生

1920年(T9)
〈102年前〉

人口:1,329人

〈1920年〉国際連盟が創設される

第1回国勢調査を実施
(内地人:5,596万人)



大正時代の中和小学校運動会のようす

1921年(T10)
〈101年前〉

隔離病舎が完成(下鍛冶屋)
中和村処女会が誕生
(女子青年団:会員60名)

〈1922年〉電灯の普及率が70%となる

1925年(T14)
〈97年前〉

人口:1,290人

〈1923年〉関東大震災(死者・行方不明者10万5千人)

1926年(T15) 電力の送電が始まる(新庄村作西水力電気(株)より)
<96年前>

※ この頃から、炭焼きが盛んになる

日本放送協会(NHK)設立

1927年(S2) 葉タバコ(備中葉)の栽培が始まる
<95年前>

特別高等警察(特高)が発足し、恐怖時代に突入した

1928年(S3) 役場に初めて電話が設置される
<94年前>
中和小学校の新築校舎落成

<1929年>世界恐慌が起こる

1930年(S5)
<92年前>

人口:1,402人

バス路線の開始(勝山—中福田間)

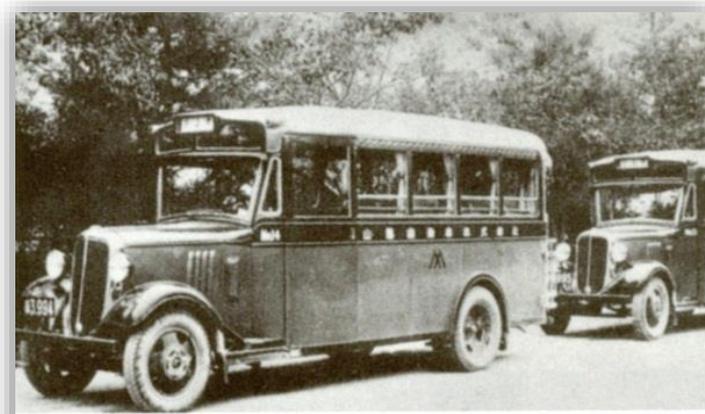
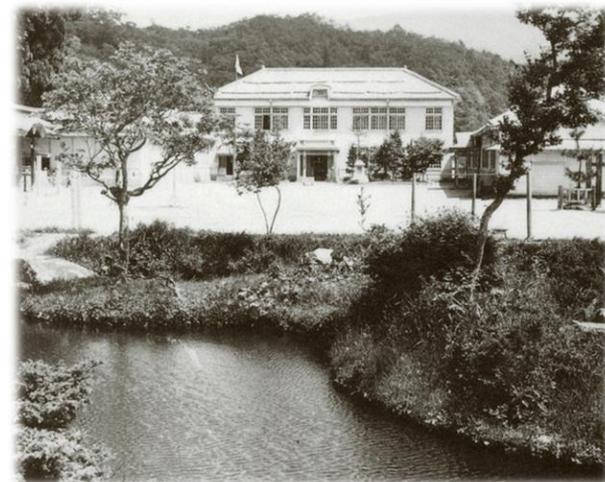
<1931年>満州事変起こる

東京が世界第2位の人口497万人に(1位はロンドン)

1934年(S9) 9月に室戸台風による大被害
<86年前> (住宅3戸が流出)

1935年(S10)
<87年前>

人口:1,393人



中国鉄道が作北のバス路線営業を開始 [昭和10]

〈1936年〉青年将校がクーデターを起こす(2.26事件)

1937年(S12) 日中戦争が勃発
〈85年前〉 (多数の在郷軍人が出征)

1938年(S13) 国民健康保険法による
〈84年前〉 「中和診療所」が開設

国家総動員法公布

〈1939年〉第二次世界大戦が始まる

1940年(S15) 人口:1,555人
〈82年前〉 (内地人:7,311万人)

〈1941年〉太平洋戦争が始まる



米の供出「昭和17」

1944年(S19) 初和に「松根油工場」
〈76年前〉 ができる(航空燃料)



航空燃料の松根掘り「昭和19」



校生徒による茶藨刈り「昭和11」



昭和15年頃の田植風景

戦後復興と民主化の時代

第二次世界大戦の犠牲者は6200万人に上った

1945年(S20)
〈77年前〉

広島・長崎に原子爆弾が投下

太平洋戦争が終結
農地改革が始まる(1945年～)

「ポツダム宣言」受諾

「日本国憲法」施行

1947年(S22)
〈75年前〉

「中和中学校」創立
(S27年に新校舎完成)

学校制度改革により
6・3制義務教育となる

「開拓農協」設立
(十数戸が入植)



中和小・中学校合同運動会の上りす [昭和25]

1948年(S23)
〈74年前〉

蒜山三村が、岡山県の南厚北薄の行政を
不満として鳥取県への分県運動が起きる

1950年(S25)
〈72年前〉

人口:1,708人
(日本の総人口:8,411万人)

1952年(S27)
〈70年前〉

「湯原ダム」の建設着工
(初和地区の20戸が水没)

※ この頃から、耕運機が普及



牛による農耕 [昭和27]



耕運機による農耕風景 [昭和27]

〈1953年〉NHKテレビ放送開始

1954年(S29)
〈68年前〉

ジャージー種乳牛を導入(24頭)
(5年後には155頭にまで増える)



ジャージー種乳牛を初めて導入【昭和29】

1956年(S31)
〈66年前〉

中和教育委員会を開設
2農協が合併して「中和共栄農協」
を設立(後に中和農業協同組合となる)

国際連合に加盟

1957年(S32)
〈65年前〉

町村合併について、村民大会
が開催される
中和小学校新校舎が完成



自転車サイクリング【昭和33】

「消費革命」…電気炊飯器や電器こたつ石油ストーブなどが一般化していった
【三種の神器:白黒テレビ・電気洗濯機・冷蔵庫】

1958年(S33)
〈64年前〉

小学校で、週5回の完全給食を実施
赤痢が発生し、小学校休校

1960年(S35)
〈62年前〉

人口:1,480人(高齢化率:7.2%)
夏大根の生産が始まる



昭和33年頃の下鍛冶屋(農協)

〈1960年〉「所得倍増計画」を、池田内閣が掲げる

高度経済成長の時代

時代は『政治』から『経済』の季節へと移行していった。人手が不足した第2・3次産業が、高給を提示して農村から働き手を引き抜いた。1955年に4割だった農業人口は、約20年間で2割となり、農村の過疎化が進んだ。

「国民皆年金」(1959年)と「国民皆保険」(1961年)の体制が整う

1962年(S37)
〈60年前〉

家庭用プロパンガスの普及が進む
("台所革命"と呼ばれた)

農業者人口が年間56万人減少し、
「三ちゃん農業」の新語が生まれる

1963年(S38)
〈59年前〉

農協が有線放送を開始(加入者:285戸)

冬期間の出稼ぎ者が増加

蒜山地区野菜生産連合会が発足

津黒に温泉が湧出(深さ280m)

1964年(S39)
〈58年前〉

別所に冬季分校を開校(S44年閉校)

米が藁俵60kgから麻袋30kgに変更

東京オリンピック(東海道新幹線が開業)

〈1960年代〉「三種の神器(3C)」(マイカー・クーラー・カラーテレビ)が流行語になる



【38豪雪】

中和小学校別所冬季分校が開校【昭和39】

東京が世界初の1,000万人都市に

1965年(S40)
〈57年前〉

人口:1,198人(高齢化率:9.8%)

中和幼稚園を開園

農協が「出稼ぎ便」を送る(対象者:131名)

〈1966年〉日本の人口が1億人を突破

1967年(S42)
〈55年前〉

定期バス開通(勝山・中和・倉吉間を1日2往復)

農業構造改善事業を開始(野辺地区)

大根集荷場が完成

〈1968年〉GNPが世界第2位となる

アポロ11号が月面着陸

1970年(S45)
〈52年前〉

人口:1,115人(高齢化率:12.9%)

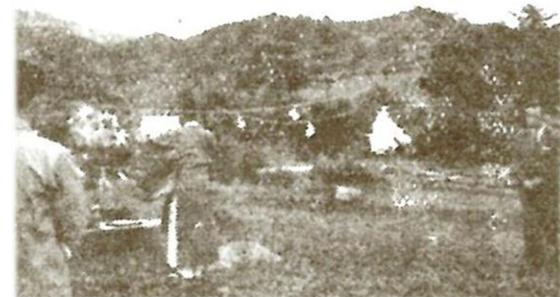
大根販売額が1億円を突破

「過疎地域」に指定

1971年(S46)
〈51年前〉

村営バスを運行開始

津黒に「村民センター」を開設



農業構造改善事業着工(野辺地区起工式) [昭和42]



農協大根集荷場作業風景 [昭和43頃]



中和村民センター完成 [昭和46]

過疎化に歯止めを！…企業誘致と観光立村へ

1972年(S47)
〈50年前〉

田中内閣の「日本列島改造論」により開発ブーム

縫製工場等を誘致
村有林(約400ha)を開発業者に売却(ゴルフ場計画)
※ 電話の普及が進む



尾崎縫製中和工場操業開始 [昭和47]

1974年(S49)
〈48年前〉

全国の地価が、32%上昇

国民宿舎「津黒高原荘」オープン

1975年(S50)
〈47年前〉

人口:1,053人(高齢化率:15.1%)
ライスセンターが完成(農協)
…農業の大型機械化が進む



中和村で初めて導入されたコンバイン [昭和48]



わらくろのある圃場風景 [昭和48]

1976年(S51)
〈46年前〉

青年クラブが第1回「ふるさと祭り」を開催
※ 囲碁クラブが発足(S52)

〈1977年〉国民の9割が「中流」意識

1978年(S53)
〈44年前〉

津黒高原スキー場が完成
…専門的農家を冬季就労の場として優先雇用

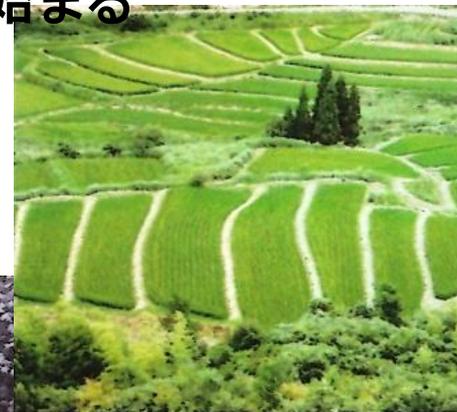
中国道が、県内全線開通(観光業が、大きく躍進)



津黒高原荘とフリーサイトキャンプ場 [昭和53]

1979年(S54)
〈43年前〉

花卉栽培(輪菊、リンドウなどの切り花)が始まる
学校給食が「米飯給食」になる



津黒の田園風景【昭和55】

1980年(S55)
〈42年前〉

人口:1,026人(高齢率:15.5%)

1982年(S57)
〈40年前〉

農林業文化祭を開催
(後に「中和紅葉祭」と改名)



除雪風景【昭和51】

米価が18,668円/俵

1984年(S59)
〈38年前〉

「青少年かたりべハウス」が完成
村づくりの任意団体「中和村の産業振興と活性化のための協議会」が発足(10年間活動)



中学生シンポジウム「未来村議会」開催【昭和61】

1985年(S60)
〈37年前〉

人口:987人(高齢率:17.2%)

1986年(S61)
〈36年前〉

中学生「中和未来村議会」を開催
「農業・農村まるごと体験村」を実施
(都市住民との交流を模索)



「バブル景気」が始まる

1987年(S62)
〈35年前〉

「中和村振興計画」を策定
…スローガン「豊かな兼業農家づくり」

投機（株と土地）に踊る
貿易黒字の縮小を迫られ、内需
拡大型経済に向かって過剰に供
給された円が、行き場を求めて
狂奔。

「総合保養地整備法」(リゾート法)が成立

1988年(S63)
〈34年前〉

村単独で「営農資金貸付制度」を創設
(無利子融資:最大500万円)



1989年(H1)
〈33年前〉

「蒜山地域リゾート整備推進協議会」を設立
…全国の自治体が、リゾートブームに沸き立った



1990年(H2)
〈32年前〉

人口:923人(高齢化率:21.2%)
津黒オートキャンプ場を開設(県内初)

実原周治さんの「わさび漬」が岡山県
農産加工品コンクールで県知事賞を
受賞【平成3】

〈1991年〉株価と地価が暴落、バブル崩壊が始まる

公務員「週休2日制」導入

1992年(H4)
〈30年前〉

米子道(落合一米子間)が開通
(太平洋(四国)と日本海(山陰)が高速道路で結ばれた)
国道313号「中和トンネル」が開通



国道313号中和トンネル開通【平成4】

自立への模索(経済成長の限界)

Jリーグが開幕

1993年(H5)
〈29年前〉

真庭郡内の8農協が合併し「真庭農協」が発足
「中和リゾート構想」が凍結となる

1994年(H6)
〈28年前〉

「中和村定来住促進条例」制定
「ファーマーズビレッジ」を整備
(移住者用の住宅付き農業体験施設)
「村営(若者定住)住宅」を建設
「蒜山三ヶ村企業誘致連合推進協議会」を設立



湯の谷地内の村営住宅が完成 [平成6]

「合併特例法」を改正(交付税の削減と期限付きの優遇措置)

1995年(H7)
〈27年前〉

人口:809人(高齢化率:31.9%)
養鶏場(15万羽)を誘致
「公共下水道事業」に着手

1996年(H8)
〈26年前〉

「中和文化協会」が発足



第1回「遊雪トライアスロンinちゅうか」開催 [平成6]

1998年(H10)
〈24年前〉

第二次「中和村振興計画」を策定
…スローガン「若者が夢と希望をもって住める村づくり」
「中和村大運動会」を開始
(保育園・小学校・中学校・村民の合同運動会)



黒川砂防公園完成「平成12」

1999年(H11)
〈23年前〉

「津黒いきものふれあいの里」オープン

「介護保険制度」始まる

2000年(H12)
〈22年前〉

人口:801人(高齢化率:35.3%)

2001年(H13)
〈21年前〉

「蒜山3村合併任意研究会」が発足
福本バイパスが完成(倉吉市が通勤・生活圏)



福本バイパス開通「平成13」

2003年(H15)
〈19年前〉

「真庭地域合併協議会」(8町村)発足

2004年(H16)
〈18年前〉

「合併協定」調印(9町村)

「平成の大合併」

自治体が3分の1に減少したこの市町村合併は、一言でいえば「理念なき合併」であった。ミニ中央集権ともいえる広域合併によって、特に周辺地域においては、地域住民による意思決定(民主主義=自治)の機能が弱まり、活力を失いつつある。

広域合併「中和地域」へ

〈平成の大合併〉市町村数が、3,232から1,821に(約44%減)

2005年(H17)
〈17年前〉

「真庭市」が誕生

人口:731人(高齢化率:35.9%)



2006年(H18)
〈16年前〉

中和小学校の新校舎完成

中和中学校が閉校(蒜山中学校に統合)

真庭農協と落合農協が合併(中和支所は給油所とATMのみに)

「尾崎縫製中和工場」が閉鎖

2009年「リーマンショック」が起こる

2010年(H22)
〈12年前〉

人口:675人(高齢化率:38.6%)



〈2011年〉東日本大震災が起こる

「真庭・トンボの森づくり」が津黒の森でスタート〈2012年〉

2013年(H25)
〈9年前〉

薬師寺と本興寺が福王寺(八束)に移転
(三ヶ寺の持仏堂・客殿を新築し、両寺とも取り壊された)

「中和地域づくり」へ新たなチャレンジ

2014年(H26)
〈8年前〉

全世帯に地域づくりに関する「アンケート調査」を実施
「中和いきいきプロジェクト」の取組みが始まる

2015年(H27)
〈7年前〉

人口:669人(高齢化率:40.8%)

「(社)アシタカ」(地域づくり会社)が設立
「中和地域薪生産組合」が発足



中和地域ガイドパンフレット
「ゆるるか中和」を発行



小学生も「竹筒燃料」づくり

2016年(H28)
〈6年前〉

「地域づくり委員会」が移住・定住
対策を進める方針を決定

「真庭なりわい塾」が中和を
フィールドとして開塾

「中和の新鮮とどけ隊」が発足
(会員:9名)

…家庭野菜を道の駅で販売
する仕組みができる



2017年(H29)
〈5年前〉

「中和いきいきサポーターズ倶楽部」発足
(小学校・保育園、地域づくりの応援団)

「空き家調査」を実施

…15棟の空き家が活用できることが判明
(空き家率は約23%)

中和の名水「津黒泉水」
を整備



2018年(H30)
〈4年前〉

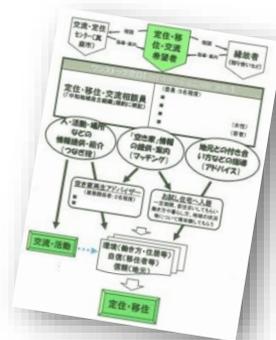
津黒に「冒険の森」がオープン(アシタカ)

地域づくり委員会が「過疎地域自立活性化
優良事例表彰」を受賞

集会拠点「えがお商店」を開設
(旧平岡商店)

「中和定住案内所」を
開設(定住相談員5名)

冒険の森 in ひるぜん OPEN!



2019年(R1)
〈3年前〉

中和小学校が「コミュニティスクール」に指定

中和小学校(地域学校協働本部)が「文部科学大臣賞」を受賞

新型コロナウイルスにより、パンデミックが起こる

2020年(R2)
〈2年前〉

中和「ふるさと祭り」「紅葉祭」を中止

2021年(R3)
〈1年前〉

2020年度の**人口が増加**に転じた(真庭市の旧町村エリアで唯一)

【人口：600人(11人増)、世帯数：257世帯(4世帯増)、高齢化率：45.3%(0.7%減)】

中和では約8年前から、3つの目標(①中和小学校の存続、②稼ぎをつくる、③心豊かなコミュニティ)を共有し
“できる人が、できるコトを…”を合言葉に、様々な地域づくり活動に取り組んできました。

これからも、6つのビジョン(生きいきとした人々が、多様な働き方をしながら、子どもたちを育み、自然を大切に、安全に安心して暮らせる、心豊かなコミュニティ)を充実し、活力と魅力ある地域づくりに頑張っていきましょう!

冒険の森 in ひるぜん OPEN!



中和の未来ビジョンと推進プロジェクト

生きいきとした人々

なりわい塾



空き家プロジェクト



紅葉祭



ふるさと祭り



豊かな人間関係

つながりプロジェクト



多様な働き方

新プロジェクト



野菜プロジェクト



よい教育

サポーターズ倶楽部



中和小学校の存続

安全・安心

中和の名水



自然の恵

いきいき学習



ヘルシーライフの目



人も地域も「時代の子」

しかし、私たちは

「微力ではあるが、無力ではない」